

# バイタルデータ自動記録

## システム連携で3機能実装

エコナビスタ(東京都千代田区)が提供する高齢者向け見守りシステム「ライフリズムナビ+DR」は、エヌ・デーソフトウェア(山形県南陽市)の介護事業所向け記録・請求システム「ほのぼのNEXT」とシステム連携を開始。6月11日、互いのデータを自動記録する新たな機能をリリースした。

### エコナビスタ



渡邊 君人 社長

ライフリズムナビ+DRは、大阪市立大学医学部疲労医学講座共同開発、東京疲労・睡眠クリニック監修の下、体調の急変や事故を未然に防ぐために開発された。毎日の「生活状態」を自動記録し、専門医療機関と連携して認知症や熱中症、睡眠障害など高齢者に多い疾患の予兆を見える化。室内状況をリアルタイムで表示し、異常時はアラートで通知することで、体調の急変や事故を防止する。出荷台数は3500台を超えている。

システム連携により次の3つの機能を実装。スタッフの業務効率化・業務軽減に寄与する。

- ①「ほのぼのNEXTとデータ自動連携」。ライフリズムナビ+DRで取得した入眠時刻、覚醒時刻、夜間トイレ回数、居室内温度などのデータを、翌朝申し送り事項としてのほのぼのNEXTに自動的に記入。朝の引継ぎがスムーズに実施されるようになる。夜間帯の不要な業務が廃止されるなど、業務負担軽減につながる事が期待される。
- ②「バイタルデータ測定自動記録機能」。入居者が自身で測定した体温・血圧・SPO2などのデータをライフリズムナビ+DRが自動的に取得、ほのぼのNEXTへ自動保存。スタッフが入室することなく利用者の体調管理が可能となる。個室をすべて巡回し、バイタルデータを測定する手間を大幅に削減。また、感染症リスクも低減させることが可能となり、コロナ禍において非常に有効な機能になるという。
- ③「リモート空調制御機能」。居室内のエアコンを入室することなく、離れた場所から制御することが可能。居室内でのエアコン操作ミスによる温度設定の事故を防止する。居室の温度異常にいち早く察知でき、遠隔から適切な温度に設定することで、熱中症などの事故を未然に防ぐことができる。

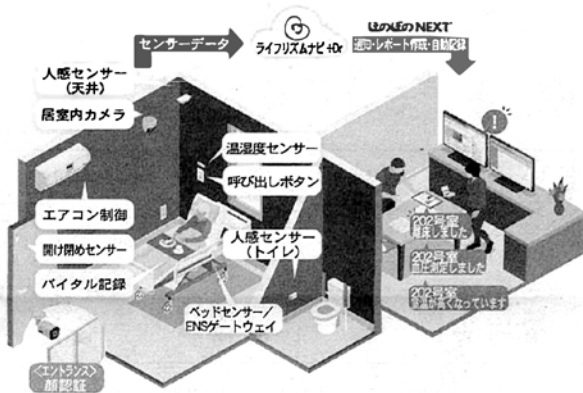
### 感染症リスク低減も

エコナビスタの渡邊君人社長は「デスクワークである記録業務を行いながら、利用者のケアを行うことは現場スタッフの負担となっている。システム連携によって、スタッフがケアに専念できる環境構築に貢献したい」と語る。



▲モニタリング項目が追加

### ●システム連携イメージ



これらの新機能を実装したシステムは、ツクイ(横浜市)が1白にオープンするサービス付き高齢者向け住宅「ツクイ・ののあおやまシニアレジデンス」に導入される。

ツクイ事業企画推進本部営業部の中村こずえ部長は「睡眠時の安全や生活リズムなどを把握して、生活改善・適切なケアプラン作成に活用するため、ライフリズムナビを全居室に導入した。非接触センサで利用者のプライバシーに配慮しながら、健康状態を管理・共有することで、体調の急変や事故を防止できることも魅力的だった」と語る。